



木曽林務課だより 10月

「まつたけ」などのキノコや、栗といった山の恵みが道の駅の直売所に並びはじめ、秋を感じるようになってきました。木曽谷の秋を感じながら行われた里山活用の炭焼き講習会の様子を紹介します。

里山をうまく使うための「炭焼き講習会」が開催されました

木曽町日義の「宮の越地域里山整備利用推進協議会」の方々は、「長野県森林づくり県民税（通称：森林税）」を活用し、里山の整備・利活用を進められており、今回新たにドラム缶を使った簡易炭がまを設置されました。「木曽製炭振興協議会」と協力してこの炭窯を利用した「炭焼き講習会」を9月19日（日）に行いました。

地元の山の恵みを炭で活用

木曽郡内の里山でも荒廃した竹やぶや、「マツ枯れ」、「ナラ枯れ」の被害が出てきており、竹や被害にあう前の木をうまく活用することが大事になっています。

間伐等で出てきた材を炭にすることは、木質資源の有効活用につながるとともに、燃料、家等での調湿、消臭などにも生活のいろいろな場面で活用できます。

自分で作って使う炭焼き体験

今回の講習会では、設置された「炭がま」と木曽製炭振興協議会の「移動式炭がま」の二つの炭がまを利用して、材を炭がまに詰めるところから、焼き上がった炭を取り出すまでの一連の工程を実習しました。

また、自分で作れる鑑賞炭の講習も行いました。参加者それぞれが持ち寄った材料を空き缶に詰めて、火にかけて出来上がった松ぼっくりなどがそのままの形で鑑賞炭として出来上がりました。

こうした取り組みが繰り返され、地域の方の生活と里山の管理が、再びつながっていくように進むことを期待したいと思います。



炭がまの構造などの講義



製炭作業実習



焼き上がった鑑賞炭